

6年生 児童 21名	平成27年11月19日(木) 5校時	会場 音楽室
	<<道徳学習指導案>> 主題名：きまりは何のために 資料名：ここを走れば	

わらいとする道徳的価値

<平成20年 小学校学習指導要領解説 道徳編より>【第5学年及び第6学年】

4-(1) **公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。**

この段階においては、社会生活上のきまりや基本的なモラルなどの倫理観を育成する観点から、児童が法やきまりの意義を理解し、遵法の本質をもつところまで高めていく必要がある。また、それとともに、他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張するとともに、義務を遂行せず、権利ばかりを主張しては社会は維持できないことについても考えを深め、義務を大切に、自分に課された義務をしっかりと果たす態度を育成することも重要である。

<平成27年 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編より>

C(12) **規則の尊重** 【第5学年及び第6学年】

法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと。

この段階においては、社会生活上のきまり、基本的なマナーや礼儀作法、モラルなどの倫理観を育成することが必要となってくる。また、日常生活において、権利や義務という観点から、自他の行動などについて考えを深めたり、それらを尊重したりすることは少ない。指導に当たっては、社会生活を送る上で必要であるきまりや、国会が定めるきまりである法(法律)などを進んで守り従うという遵法の本質をもつところまで高めていく必要がある。また、他人の権利を理解、尊重し、自分の権利を正しく主張するとともに、義務を遂行しないで権利ばかりを主張していたのでは社会は維持できないことについても具体的に考えを深め、自分に課された義務についてはしっかりと果たそうとする態度を育成することが重要である。また、身近な集団生活を送る上においても、みんなで互いの権利を尊重し合い、自らの義務を進んで果たすことが大切であるという理解と積極的な行動ができるようになる必要がある。

※主体性をもってきまりや規則を守ることをより一層重視して

「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り」に改めた。

よりよい社会生活を営むためには、社会を構成する人々が互いの権利を大切に、お互いに保証し合うことが大切である。だが、互いの権利が時と場合によってぶつかり合うこともあれば、個人の権利を優先させることで社会全体に不利益が起こることもある。そこにきまりや法が生まれ、それを守るという義務が生じることで集団や社会全体の幸せや秩序を保つことができる。つまり、きまりや法は人が社会の中でよりよく生きるための知恵であり、人々の願いが形となったものとも考えることができる。

近年、規範意識の低下が大きく叫ばれている。この根底には、「自分さえよければよい」という個人の利己的な考え方が優先され、その行為にどんな影響があり、どんな迷惑がかかってしまうのか周囲に目を向けていない個人の心の弱さが内在していると思える。

だからこそ、きまりや法の意味や意義を理解し、自律的にそれらを守ろうとする規範意識を育てることが大切である。そのことが日常生活のさまざまな場面において、周囲への影響や社会全体の利益を考えて自らの行動を規制し、心ある行動をとろうとする意識の涵養へとつながっていくと考える。

児童の実態

《省略》

第6学年 道徳教育の全体計画と本時とのかかわり

各教科等における道徳的な学び	道徳の時間	※私たちの道徳の活用	行事 特別活動 地域・家庭連携
<p>7月 社会科 「幕府の政治と人々の成長」 体育科 「水泳」</p> <p>9月 社会科 「新しい時代の幕開け」</p> <p>10月 国語科 「意見文を書こう」</p> <p>11月 社会科 「平和で豊かな暮らしを目指して」</p> <p>12月 社会科 「身近な暮らしと政治」</p> <p>1月 社会科 「憲法とわたしたちの暮らし」</p> <p>3月 体育科 「ボール運動（ゴール型）」</p>	<p>7月 主題名「権利と義務とは」 資料名『ビルとジョン』 ・自他の権利を大切に し、進んで義務を果たそ うとする態度を育てる。</p> <p>11月 【本時】 主題名「きまりは何のために」 資料名『ここを走れば』 ・人間の心の弱さを理解 しながらも、きまりに込 められた意義を深く考 えて、それを進んで守ろ うとする態度を育てる。</p>	<p>「権利とは義務とは なんだろう」 「日本国憲法が定める 国民の権利と義務」</p> <p>「考えよう、これからの 社会と私たち」</p> <p>「日本国憲法が定める 国民の権利と義務」</p>	<p>5月 学活 運動会を成功させよう</p> <p>6月 学活 修学旅行に向けて</p> <p>6月 運動会</p> <p>6月 修学旅行</p>

資料について

離れたところに住む祖父が倒れたという知らせを受け、「ぼく」や父は車で向かうが、高速道路で事故による渋滞に巻き込まれる。路側帯を通り過ぎる車を見て、急いでいるのだから路側帯を走ればいいのと思う妹や「ぼく」であるが、父は走ろうとはしない。高山に到着した時に祖父はすでに亡くなっていた。緊急の事態であるから交通規則を破っても仕方がないとする主人公たちの気持ちと、それでも守り通した父親の考えを通して、きまりの意義とは何かを浮き彫りにしている内容であり、「きまりを尊重するよさ・価値」について考えるのに適した資料である。

授業のポイント

問題解決的な学習展開、葛藤状況についての丁寧な話し合いを通して、
きまりの意義について主体的に深く考え、守っていくことへの身構えを持てる授業

きまりを守れない時、守れる時、心の違いは？ 手立て① 価値を焦点化し、主体的に追究していくための「問題解決的な」学習テーマの提示

守れなくても仕方ない

- ・おじいちゃんに会った方がいい
- ・他の人も走っている
- ・緊急事態だから仕方ない

お父さんが走らなかったのは？

- ・きまりを破ることははずかしいこと
- ・おじいさんの教えを守りたい
- ・人に迷惑をかけてはいけない
- ・本当に困っている人のことを考えた
- ・自分も破ると、他の人も破ってしまう

大丈夫、ぼくも同じ気持ちだよ

- ・後悔はしなくてもいいよ
- ・人に迷惑をかけたことは、おじいちゃんも喜んでいるよ
- ・本当に困っている人のことを考えて判断したことが、すごいと思う
- ・自分よりも、周りのことを考えて、かっこいい

きまりの意味（みんなのため・回りのため）をしっかりと考えている

守らなくてはいけない

- ・法律で決まっているから
- ・緊急車両が通れなくなるから

守れない時の心って？

- ・急いでいる時や、自分のことだけを考えてしまう時に、守れなくなってしまう
- ・周りのことや困っている人のことを考えられない時に、守れなくなってしまう

守れる時の心って？

- ・本当に困っている人、立場の弱い人のことを、しっかり考えている
- ・きまりの意味をわかっていて、それを守ろうと強く思っている

手立て② 学習テーマを多面的に追究していくための葛藤状況における丁寧な話し合い

手立て③ 大切な価値に迫るための「生き方を問う」中心発問

手立て④ きまりに対する考え方を一般化し今後につなげていくための『わたしたちの道徳』の活用

研究の視点

(1) 指導計画の工夫改善

①実態を踏まえた『心に響く資料』の活用

葛藤的要素の含まれた魅力ある資料である。また、それを活かすために一部改訂を行う（配布資料の赤部を加除修正）。さらに、主人公の「父」の判断の重さを強調させるため、資料を前半部と後半部に分けて提示することとする。

「高速道路の路側帯」については、イメージが湧かない児童がいることも予想されるので、写真資料などを用い、前提となる理解に差が出ないように配慮しながら指導に当たること考える。

②資料を活かす『問い』の工夫

まず、中心発問は、『『ぼく』はお父さんにどんな言葉をかけるだろう?』としたい。父の涙の理由を、児童は色々と想像するだろう。「肉親との最期に立ち会えなかった無念」、「父親（祖父）に対する謝罪」、「自分の取った行動を振り返った時に浮かんだ複雑な感情」…。その真相は正確には分からないが、そんな父の姿を見て感じるのが、父の下した「路側帯は困っている人のためにあるものだから、走らない」という重く難しい判断への尊敬の念なのではないだろうか。父の思いを肯定することが、「自分も『きまりを守っていききたい』」という意欲や態度につながっていくと考えている。なお、「お父さんが、それでも路側帯を走らなかったのはなぜ?」という補助発問も行い、感情論に流されすぎることなく、きまりに込められた意義についても確かに捉えられるようにし、道徳的な判断力を高めていけるようにする。

中心発問の前に、『『ぼく』は、どうして迷っていたのだろう?』という発問を行う。道徳的に正しい判断もしたいが、それがしづらくなるという葛藤状況を、児童に充分追体験させたい。

なお、「とらえる」では、「きまりを守れない時、守れる時、心の違いは?」という学習テーマを設定する。テーマを掲げて問題解決的な学習の流れにすることで、児童が学習に対して主体的に取り組むことが期待される。人間の弱さの理解を深めることも、最終的にきまりを守り通す判断をするときの大きな助けになると考えている。

板書計画



(2) 伝え合い、深め合う場の設定

③発言の整理と板書の視覚化

『『ぼく』は、どうして迷っていたのだろう。その割合にした理由は。』については、ネームカードや心情メーター等で現在の立場を明確にする。そして、近くの児童同士でその根拠を話し合うことで、自分が考えた根拠が強まったり、気付いていなかった根拠に気付いたりすることに期待する。

また、中心発問「『ぼく』はお父さんにどんな言葉をかけるだろう。」については、一度考えをワークシートに記入させ、机間指導を行って記入内容を確認してから、父の判断のよさや価値の大切さに気づいていけるよう、指名順を考慮して発表させていきたい。

いずれの場面でも、表面的な回答やもう少しで大切な価値に迫りそうな回答に対しては、積極的に「問い返す」、「切り返す」などして、価値の本質的な自覚につなげていきたいと考える。

板書については、学習テーマでもある「きまりを守れない時の心の動き」と、「守ろうとする時の心の動き」が、対比できるように構成していきたい。

④主体的自覚への工夫

「深める」では、『わたしたちの道徳』P120~121「考えよう、これからの社会と私たち」を活用する。ここでは、「きまり」などが守られていない場面が示されている。それぞれの場面で、守らなければいけない理由や守ることができない心の動きについて「自分だったら」の視点で考えていくこととする。多くの日常場面を取り扱えるため、きまりに出会った時の「よき身構え」を、一般化できるよさがあると考えている。

⑤終末の活動の工夫

「まとめる」の説話では、「とらえる」でも使用した、「自転車用ヘルメットの着用率」が、今年度大きく向上したことを話題とする。「自分たちでも、『きまり』を守れるようになった」という明るい見通しを持たせるとともに、再度、「守れない時の弱い心」と「守り通す強い心」の違いを感じさせたい。授業の最後には、「感じたこと・考えたこと」、「自分のこれまでとこれから」といった視点でのふりかえりを促し、価値についての思いを充分に温められるようにする。

本時の目標 人間の心の弱さを理解しながらも、きまりに込められた意義を深く考えて、それを進んで守ろうとする態度を育てる。

本時の展開(1/1)

	子どもの学習活動・意識	教師のかかわり (※評価 ・留意点)
とらえる	1 学校生活に関するアンケート結果を見て、問題意識を持つ 校内生活のきまりについてのアンケートです。どれくらいの人が守れているだろうか。	
	2 本時の「学習テーマ」を確認する きまりを守れない時、守れる時、心の違いは？	・クイズにして話題を広げ、問題意識を持てるようにする
考える	3 資料『ここを走れば』を読んで考える 「ぼく」は、何で迷っていたのだろうか。その割合にした理由は。 【路側帯を走ってもいいのでは】 ・他の人も走っているから、自分たちも許されると思う ・命がかかった緊急事態なので、仕方ないと思う ・おじいさんだって、最期に会いたくないはず 【路側帯を走らないでいこう】 ・法律で決められているから、破ってはいけない ・自分が法律を破ることで、本当に路側帯が必要な人に迷惑をかけてしまう	・資料の前半部を読む ・心情メーター等を活用する ・2つの心の中で迷っていることを確認した後、それぞれの根拠を考えさせる ・葛藤状況を全体で確認した後、資料の後半部を読む
	「ぼく」は、お父さんにどんな言葉をかけるだろう。 ・「大丈夫、ぼくも同じ気持ちだよ。」 ・「悔しい気持ちはあるけど、後悔はしなくてもいいと思うよ。」 ・「きまりを破っていたら、おじいちゃんが怒っていたと思うよ。」 ・「お父さんは人に迷惑をかけなかったから、おじいちゃんも安心していると思うよ。」 ・「お父さんのやったことは間違いじゃないよ。」 ・「本当に困っている人のことを考えて、路側帯を走らなかったのが、すごいと思う。」 ・「自分よりも周りのことを考えて、きまりを守ったんだね。」	・無念さへの共感から、価値ある行為への肯定、尊敬の念が高まるよう話し合わせる ・「お父さんがそれでも路側帯を走らなかったのはなぜ」といった補助発問、切り返しや問い返して、父の判断のよさに深く気づけるようにする ・父の深い判断の根拠、そしてそのよさに気づいた所で交流を終える
深める	4 きまりを守る大切さや「学習テーマ」の答えについて考える これらのきまりを守らなければいけないのはなぜだろう。 「学習テーマ」についての考えを書こう。	
	・きまりを守ることで、みんなが気持ちよく暮らすことができる ・急いでいる時や、自分のことだけに集中してしまう時に、守ることができなくなる ・立場の弱い人や周りのことを考えると、きまりを守ることができる	・『私たちの道徳』P120～121で、きまりを守る大切さなどを想起させた後、テーマの答えを考えさせる
まとめる	5 教師の説話を聞き、今日の授業をふりかえって、自分とのかかわりの中で、価値についての考えを深める 今日の授業を終えて考えていることを書こう。	※きまりの意義を深く考えようとしたり、弱い心を認めながらも進んで守っていくよさに気づいたりしているか (ワークシート、発言)
	・きまりは、みんなが気持ちよく生活するために考えて作られたもの ・きまりには、それをしなければならぬ意味がしっかりとこめられていることがわかった ・きまりを守れなくなりそうになる気持ちはわかるけれど、それをおさえて、大切なきまりを守っていきたい	・「妹と父の決断の違い」、「自転車用ヘルメットの着用率の違い」を説話とする ・じっくり考える時間、書く時間を確保する